

京丹波町の産品と人を活かした仕事づくり

株式会社 京のちから 代表取締役 石井 雄一郎

1.活動方針・目的

生まれた地域で働きたいと願う人が生き生きと働ける地域社会の実現を目指しています。

2.活動内容

就労継続支援A型事業所(障害をお持ちの方と雇用契約を結び最低賃金を保障し就業して頂く事業所)を京都市、京丹波町の2か所で運営しています。京丹波町では京都府・京丹波町・大倉区長と弊社との間で「京都モデルファーム活用協定」を締結し、地元の耕作放棄地を利用して農産物(京野菜等)の生産を行い、野菜の直売やカフェ・レストランへの野菜卸、直営のそば店、カフェへの食材提供を行っています。また、京都市内の事業所に於いて自社生産農産物や近隣の特産品を用いて京土産としての「京の地のもんスイーツ」の生産・販売を行い、京都の食材の魅力を地元の方々や観光客に再認識して頂ける様、日々、商品開発と販売・卸販売に努力しています。

3.他の活動団体の参考となる事例

地元障害者の雇用を中心に、耕作放棄地の活用、高齢者の雇用、農業指導員としてのボランティア活動、また農家の主婦の方のそば店、カフェの職業指導員としての雇用を通じて地域の雇用の拡大と地域の活性に微力ながら尽力で来ているのではないかと感じています。

また、農地で活動するだけでなく、農産物の加工販売による6次産業化で付加価値を高め収益性を高める事で、継続可能な農業生産を目指しています。

農業への参入に対しては地域からの部外者排除意識が根強く、弊社と京都府知事、京丹波町長、大倉区長との間で締結した「モデルファーム協定」は地域の皆さんへの弊社の取り組みを理解して頂く上で大変重要なファクターとなりました。

4.今後の課題等

今後福祉事業所として継続して行く上で、一番の課題となるのが事業収益の確保です。

弊社は農業からの6次産業化で付加価値を高め収益性を高めようと努めていますが、世界的なエネルギー供給や、地域紛争に伴う為替相場の変動に一般企業と同じように業績が左右されるのが現状です。私たちに解雇や人員削減、工場の海外への移転と言う選択肢はありません。地域と共に歩む事業体であることが一番に求められるのです。

私たちの今後の取り組みは地域エネルギーを私たちの手で創出し、世界経済や政治局面に左右されない地域社会の確立です。

すなわち、バイオマスによる継続的な地域エネルギーの創出と供給、スモールシティの実現をそれを最も必要とする私たちが手掛け実践する事で私たちに手で社会共通資本を守る事です。

実現に向けて必要となる巨額な資本をどの様に準備し、実践していくのかが私たちの課題であり、実現することが弊社の使命であると考えています。



生まれた地域で生き活きと働ける
地域社会の実現を目指します！



**就労継続支援A型事業所
和知のちから**



**京都モデルファーム活用協定を締結
しました。**



6次産業化を目指しています。

京生まれ、京育ち。
 地元の農家が丹精込めて育てた
 新鮮な野菜や卵、そして山の幸。
 四季折々の食材にこだわった
 京都ならではの、はんなりスイーツ。

京のほろほろくっさい

地元産丹波「キヌヒカリ」の米粉を使った、ほろほろ、とろとろの一口サイズクッキー。抹茶や黒豆など京都の食材と組み合わせ、小豆粉・卵不使用のお菓子に仕上げました。



京都美山のたまごスイーツ

かやぶきの里として知られる、京都美山町産のたまごを使用。自然の潤いを食べ、元気に走り回っている地産のたまごは不飽和脂肪酸が豊富で、自然のままの美味しさです。抹茶や季節の野菜・果物を使った商品もございます。



京野菜くっさい

金時にしん、みず菜、青じそ、青ネギ、旬の京野菜をペースト状にして、丹念に生地を練り込み、風味豊かな焼き菓子を仕上げました。



京ばうんど

丹波黒豆と餡子をふんだんに焼きほめた「玄武」、宇治抹茶と大納言小豆が個性あふれる「首龍」、栗ペースト生地、丹波栗がごろごろ入った「白虎」、丹波ワイン漬け無花果とクランベリーが「朱雀」。京の都をやる四神の名をもつイロハ和風バウンド。



バイオマスの実践を僕たちから！

